（３）②様式第３号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ず A３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 熊本大学教職大学院・鹿児島大学教職大学院
	事業名： NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業
	研修等名： 【NITS・南九州プラットフォーム(熊本大学・鹿児島大学)コラボ研修】 ミドルリーダーマネジメント能力育成プログラム
	開催日時：令和６年 12 月 22 日(日)～12 月 24 日（火） ３日間、終日 開催場所：熊本大学（熊本県熊本市中央区黒髪 2-39-1） 参加人数（総数）と参加者の属性：（８８人）大学院生 27 人、教育関係者 44 人、大学教員 17 人

目的：この研修は、熊本県および鹿児島県の教職員を対象に、ミドルリーダーとしての資質・能力を向上させることを目的としています。令和元年度より開催されている本取組は、南九州プラットフォームを活用し、両大学教職大学院や教職員支援機構との協議の下、継続的に実施されてきました。本年度は、多様な講師による講義や実践報告を通じて、学校教育が直面する現代的課題への理解を深め、熊本県と鹿児島県の特色を踏まえた課題解決策の共有を図りました。また、研修方法としてハイブリッド方式を採用し、オンラインの利便性と対面形式の交流を組み合わせることで、より効果的な学びの場を提供しています。今後は、熊本県と鹿児島県の教職員間の交流を促進し、両大学教職大学院と学校現場との連携を強化することで、地域に根ざした持続可能な教育体制の構築を目指します。さらに、学校経営やカリキュラム・マネジメントに関する専門性を高めるプログラムを通じて、現場での実践力を育成するとともに、地域課題の解決に貢献する教職員の育成を図り、両県の教育の質を向上させる取り組みを進めていきます。

内容：※全体発表の内容をテープ起こしするなど、具体的に記載してください。

12 月 22 日(日)
テーマ①：「これからの学校をつくるリーダーの育成」
講義１ 「これからの学校をつくるリーダーの育成」熊本県教育委員会 義務教育課 課長 井手 正直 氏
熊本市教育委員会 学校教育部長 福田 衣都子 氏
井手氏からは自身の経歴を交え、リーダーの在り方、県教委の施策である「熊本の学び」と今後の取り組みの方向性が語られた。福田氏からは，市教委で実施している質の高い人材育成の取組の紹介がなされた。
講義２ 「これからの学校をつくるリーダーの育成」 熊本大学 特任教授・名誉教授 西山 忠男 氏
（ダイバーシティ推進室特定事業教員）
実体験をもとに、諸外国でのエピソードの紹介と熊本の課題を提示され、ダイバーシティや無意識の偏見への理解が求められ、「女性が活躍できる社会」の重要性について語られた。
実践発表
「組織と人材を育てるリーダーシップ」 菊池教育事務所 日吉邦宏所長
「教師として、そして所長として組織と人材を育てるリーダーシップ」 上益城教育事務所 笠聡一郎所長
「今なぜ、次世代のリーダー育成なのか」八代教育事務所 渡辺薫所長
「『認め・つなぐ・明るい』教育の実現」 芦北教育事務所 前川和宏所長
パネルディスカッション
ディスカッションテーマ：「次世代教育リーダーの役割とスキル」/「子供たちの未来を形作る」
パネラー：日吉、笠、渡辺、前川所長 モデレーター：熊本大学大学院 古田亮 シニア教授
組織の成長や次世代リーダー育成に向けた取り組みの報告がなされ、リーダーシップの具体例が共有された。パネルディスカッションでは、リーダーの役割や必要なスキルについて、子供たちの未来を形作る方向性が示された。
12 月 23 日（月）
講義３ 「学校におけるリーダーシップとマネジメント」 鹿児島大学 有倉巳幸教授
学校におけるリーダーシップとマネジメントの役割、不確実な時代において、教師が専門性を活かし、協働し課題解決に取り組むこと、能力を発揮できる環境を整える管理職の役割について、説明いただいた。
テーマ②：「授業改善や教育活動の質の向上」
講義１ 「授業改善や教育活動の質の向上－教科書を教える授業と教科書で教える授業－」
熊本大学 藤瀬泰司教授

教科書「で」教える授業の意義が述べられ、学びを通じて生徒の固定観念や素朴知を変容させる重要性が示された。具体例（「貝塚の犬」）を示し、協議を通して授業改善の鍵となることの確認がなされた。
講義２ 「授業改善や教育活動の質の向上～教科外教育を中心に～」 熊本大学　八ツ塚一郎教授
防災教育などの事例を通じ、子供主体の学びや多角的アプローチの意義が示された。また、現場でのミドルリーダーが果たす役割や柔軟なマネジメントの重要性が述べられた。
講義３ 「授業改善や教育活動の質の向上～ICT の活用を中心に～」 熊本大学　前田康裕特任教授
GIGA スクール構想や課題解決型プロジェクトの実践校の取組が紹介され、ICT を活用して「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善、教師自身の役割転換の重要性について語られた。
12 月 24 日(火)
テーマ③：「国際化への対応」
講義１ 「多文化共生の学校づくり（学校経営学の視点から）」　熊本大学 波多江俊介准教授
外国につながる児童生徒への対応を通じた教員の指導力向上と、学校組織の協働の重要性が論じられた。ミドルリーダーが多文化共生を推進し、課題解決のマネジメントを担う役割について語られた。
講義２ 「熊本における外国につながる児童生徒の教育の状況と教員養成・研修の課題」
熊本大学　八幡英幸教授
熊本における外国につながる児童生徒への教育課題と、教員研修を通じた対応が報告された。研修により受講者の学びが深まりつつも、学校現場での活用や交流促進の課題についても説明された。
テーマ④：「社会に開かれた教育課程の実現」
講義１ 「社会に開かれた教育課程の実現」 島根大学　中村怜詞准教授
地域との連携を通じた教育の可能性について、隠岐島前高校の事例を基に報告された。地域課題への取り組みを通じて生徒の当事者意識を育て、協働型の教育体制を整備することの意義が語られた。
講義２ 「子どもと教員のウェルビーイングを高めるリーダーシップ実践」 愛媛大学　露口健司教授
ウェルビーイング視点から、地域との協働による教育環境の活性化が提案された。持続的な幸福を感じられる学びの場の重要性や、教員を含めた全体の幸福を促進するリーダーシップの具体例が紹介された。

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載して下さい。
研修への評価（研修修了時に講義内容に関するアンケートを実施 5 段階評価※最高評価 5）
- 全体評価平均: 4.39　（各日程別評価: 1 日目 (4.55), 2 日目 (4.27), 3 日目 (4.37)）
- 参加方法別評価: 参集参加者 (4.83), オンライン参加者 (4.38)

研修参加者の感想
「多くの学びがありました。組織としての共通理解・共通実践が大切であることは十分に理解していましたが、納得感やバランス、柔軟な考え方等、様々な考え方を持つ教職員集団を動かしていくために欠かせないキーワードをいくつも学ぶことができました。今回のように学びの場があることで、また、頑張ろうという気持ちにもなれました。また、学び続けることは大切だと改めて感じました。若い先生方に教職の魅力を感じながら、チームの一員として子どもたちの教育に携わっているという意識を持ってもらえるようなリーダーになりたいと思いました。」
20 代から 60 代と幅広い年齢層の参加があり、それぞれの立場、状況に応じて「ミドルリーダーとしての資質・能力の向上」と向き合われていることが伝わる感想が多数寄せられた。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き
「研修デザインの三角形」を意識することで、参加者の研修後の実働や、改善サイクルを回していくことにつながるにはどうすればいいかを考えた。そうすることで、「研修目標」「研修内容」「研修方法」を明確にする必要性を、改めて確認できた。準備を通して「子供の学びと教師の学びは相似形」であることを実感した。

アイディアや工夫したこと： ※実際の様子がより分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明してください。
- 参加者それぞれのニーズに対応すべく４つのテーマを設け、講師を選任した。
- 研修の最終日の講師には、NITS 校内研修シリーズ担当講師から選任。参加者が、研修後も学ぶきっかけができるように意識した。

テーマ①「これからの学校をつくるリーダーの育成」　テーマ②「授業改善や教育活動の質の向上」　テーマ③「国際化への対応」　テーマ④「社会に開かれた教育課程の実現」